

学校 教育 目標	小坪っ子は星座のように輝く ～自らが光を放ち、ともに輝き合う子の育成～ 知: 自ら粘り強く課題解決を図り、自分の考えを深め表現できる子どもを育てます。 徳: 周りの人と豊かにかかわる中で、自分や相手を大切にできる子どもを育てます。 体: 食生活や運動など自分の生活を見つめ、健康な心と体をつくる子どもを育てます。 公: 積極的に相手や社会にかかわり、自分ができることを考え、実践する子どもを育てます。 開: 様々な人とかかわり合い、視野を広げていこうとする子どもを育てます。				
	学校 概要	創立 44 周年 児童生徒数: 295 人	学校長 芦垣 幸代 主な関係校: 日野南中学校・日野南小学校・日野小学校	副校長 青柳 英樹	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	日野南中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<主体的に考える力> 課題をもつ、粘り強く <思いや考えを伝える力> 思いや考えをもつ、伝える、伝え合う、人と 関わる、協働する <自分と他者の違いを受け入れ大切にできる力>	日野南中学校 日野小学校 日野南小学校 小坪小学校	多様性を尊重し、協働して高め合う子ども 主体的・対話的に学び続ける子ども ①人を思いやる心を育むために、入種教育を推進する。 ②「対話的な学びの充実」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科・領域等 においてテーマを意識した授業を展開する。 ③児童生徒交流日、小中交流会で、6年生が中学校の授業と部活動を体験する。

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的で対話的な学びを充実させます。 ・課題をもち、学習計画を立て、主体的に学ぶ経験を積み重ねる授業づくりを推進する。 ・自分の考えをもち、伝えたいという思いをもつ授業づくりを推進し、伝え合うことで自分の考えが広がり深まるよさ、主体的に学ぶよさ、他者と関わるよさを実感できるようにする。 ・日々の観察とデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え、学びの充実に生かす。 ○まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、人と関わり協働していこうとする力を育てます。 ・まちの「人」「もの」「こと」と関わり、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする力ができるようにする。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①【課題設定⇒思考・表現⇒ふりかえり】のサイクルを明確にする。単元の初めにゴールの設定や「何ができるようになるにゃればよいか」を示し、学習の目的をもったり計画を立てたりできるようにする。 ②子どもの探究的な学び、個別最適な学びの中で効果的なICTの活用を進める。
担当 教育課程部会	
徳 人権教育	①学年、学級目標に人権の視点を盛り込み、成果や課題を振り返り、互いを尊重し合うことができる集団づくりを行うようにする。 ②自分や他者のよさを実感できる授業づくりを行う。児童が自分のよさを認められるよう計画的に『横浜プログラム』を活用する。 ③言葉遣いの即時フィードバックを意識して、間違っていた時に正しながら、互いを尊重した言葉遣いを指導していく。
担当 人権教育推進・児童育成部会	
体 健康教育	①日常的な外遊びを積極的に推奨したり、子ども主体で計画された運動集会や運動週間を定期的に行ったりして、楽しく体を動かす機会を設定し、日常的に運動に取り組む態度を養う。 ②保健だよりや掲示物、健康委員会からの情報発信などで児童の健康に関する関心を高める。
担当 児童育成部会(体力向上)	
公開 地域と関わる学び	①地域にある材を職員全体で共有し、年度初めの単元立ち上げ研修でも活用して、生活科・総合的な学習の時間の充実を目指す。 ②学校運営協議会やKSS、地域子どもの安全対策協議会等で取り上げられた課題を共有し、地域との協働を推進する。
担当 教育課程部会(教育課程・地域連携)	
いじめへの対応	①児童がいじめについて理解し、自分たちでいじめの未然防止について話し合い、年間を通して実践に移せるようにする。 ②月1回以上いじめ防止対策委員会を行い、未然防止、早期発見・対応・経過観察を迅速かつ丁寧に行う。 ③いじめ防止研修を実施し、全職員のいじめに対するアンテナを高くすると共に、情報共有を行う。 ④児童アンケートを定期的に行い、児童の困り感等を見つける。学年で共有し、対応していく。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①教育課程部会、児童育成部会に全員が所属し、検討や提案を担い、学校運営への参画意識を高める。学年研、ブロック研、メンターチーム、教務主幹会などを通し、それぞれの立場で主体的に学校運営に参画する。 ②各自の校外での研修を資料提示や打ち合わせなどで校内に紹介し、活用できるようにする。 ③一部教科担任制を行い、学年で児童の指導・支援に一層あたることと共に教材研究の効率化を図る。
担当 教務主幹会	
児童指導	①誰にとっても安心、安全な学校生活にするために、「小坪小スタンダード」をもとに、約束を明確にする。子どもたちにも分かりやすく指導し、保護者にも周知して連携できるようにする。定期的な確認・振り返りの場を設定する。 ②児童会活動を中心に全校であいさつ運動などを継続的に取り組む。各学級でも日々のあいさつを気持ちよく行えるようにする。 ③職員会議において児童理解の内容を扱うことを定例化し児童の状況を共通理解する。
担当 児童育成部会	
特別支援教育	①授業のユニバーサルデザインについて教職員の理解を深め、誰もが授業に参加できるように取り組む。 ②児童育成部会を核として日頃教室でできる支援等を職員で共有するための情報発信をしていく。ICTの効果的な活用を進める。 ③ブロックごとに月1回支援検討会を開き、話し合った支援の手立てを実践し、評価、改善をしていく。
担当 児童育成部会(特別支援)	